

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570103152		
法人名	医療法人岡田整形外科		
事業所名	グループホーム楽楽		
所在地	宮崎市大字浮田3321		
自己評価作成日	平成28年 7月 10日	評価結果市町村受理日	平成28年9月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&jisyosyoCd=4570103152-00&PrefCd=45&VersionId=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節に応じた行事を定期的に企画しており、旬の食材を使った昼食会や外出行事等を実施している。今年度は法人内の事業所と合同で昼食会や運動会を企画した職種協働で利用者が楽しめる企画を実施している。法人内の取り組みの一つの「なぜメモ」を活用し、入居者のニーズや家族の気付き等、情報の収集・共有に努めている。また、併設医療機関の看護師が勤務し、常時医療的なサポートや助言等を受けられるよう勤務体制を整えている。医療と介護の連携が密に図れており、申し送り・情報共有が円滑に取れることにより、入居者の状態悪化の予防や緊急時の対応が速やかに行えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ敷地内に隣接して、母体の医院、認知症専用デイサービス、グループホームがあり、連携して運営をしている。ほとんどの利用者が母体の医院をかかりつけ医としており、急変時の対応やいつでも気軽に相談、受診がなされている。また、散歩時や買物時に地域の人々と親しく挨拶を交わしたり、地区の祭りや文化祭に参加するなど、地域との交流を積極的に行っている。防災の対応についても、近隣住民との間に自動通報連絡網を設置し、緊急時の協力体制を築いている。利用者の高齢化が進んでいるが、職員は温かいケアに努め、日々穏やかに暮らせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを踏まえた理念を掲げ、それに基づいた目標を設定し、ケアを行っている。日々のコミュニケーションや運営推進会議等を行い、日常のケアに活かされるよう努めている。理念を記載したカードを配り、理解を促している。	理念に基づいて、職員一人ひとりが目標を設定し、日々のサービス向上に努めている。職員は常に理念を携帯し、共有を図ると共に、理解を深める努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	車椅子や寝たきりの方が多く、日常的な交流はないが、散歩時や買い物時は地域の人々と気軽に挨拶を交わしている。地区の祭りや文化祭などに参加することで交流を図っている。	散歩時や買物時に地域の人々と親しく挨拶を交わし、交流を深めている。地域の祭りや文化祭に参加したり、ボランティアによる外出支援の協力など、地域とのつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の開催や講座の講師役として参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員には入居者家族・民生委員・社協役員などを選定し、年6回運営推進会議を行っている。協議された内容については全スタッフへ周知し、サービスの質の向上につなげている。	会議では防災避難訓練についての意見交換や家族アンケート調査の報告についての質疑等がなされ、双方向的な会議となっている。出された意見や提案はサービス向上に生かしている。また、次年度の構成員についての検討をしている。	運営推進会議のメンバーとして地域の代表や行政、知見を有する者等、幅広い人材を登用すること、また、会議をさらに充実させるための方策を検討することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が行う研修会に積極的に参加したり、地域包括支援センター、社会福祉協議会と運営推進会議等を通して連携を図っている。	市の担当者とは、ホームの運営や課題についての相談等を気軽にできる良好な関係を築いている。市が主催する研修会や講座に積極的に参加して協働している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間事業計画に身体拘束の内部勉強会を盛り込み、日々のケアにおいて実践している。夜間は防犯の為に施錠をしているが、日中の施錠はせず、ベッド柵なども拘束となる仕方はしていない。	職員は内・外の研修に参加して身体拘束の弊害について学び、理解を深め、身体拘束のないケアに全員で取り組んでいる。見守りを重視した取組で、日中は玄関や居室の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間事業計画に高齢者虐待についての内部勉強会を盛り込み、法令の理解に努めてケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間事業計画の中に権利擁護に関する内部勉強会を設定し、実施し、理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得のいくまで説明を行い、その都度面談などを開き、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時や交流会時、アンケート調査により家族へ意見を聞いている。年1回の家族会ではお酒を交えながら要望等を聞き、ケアプラン作成時もケアや施設運営についての意見などを聞くようにしている。	定期的にアンケート調査を行い、その結果を公表し、意見や提案を運営に反映している。また、家族交流会を開き、家族の要望や意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われる会議に出席し、意見を聞いたり、個別に面談の機会を設け、要望や提案を聞くようにしている。	職員会議やミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。会議では残業をなくすための話し合いがあり、出された提案を勤務体制の改善につなげた事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的代表者や管理者とスタッフとの面談があり、その場で話をしている。また、労働環境については会議等で課題を話し合い、改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼時に、研修のアナウンスを行っている。また、年間計画や個人目標の設定に基づき、定期的に内部研修等を実施している。教育訓練マップ等を使用し、自己のスキルアップに役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入し、研修企画や他事業所との意見交換の場としても役立てている。今年度は、スタッフ交流として他事業所との飲み会なども実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学時や面談時に、本人や家族の悩みや要望などを尋ね、少しでも安心できるような関係を作っている。新規相談時は入居前の関係作りで何度か本人と面会するようにしている。 センター方式を家族に記入していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに声かけを行い、要望などはケアプランに盛り込んだりしている。また、面会時には要望などを聞き、日々の支援に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、管理者も含めたスタッフで話し合い、さまざまなサービスの検討も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が分からないことや苦手なことについて、人生の先輩である入居者様に尋ねたり、教えていただく機会を持っている。また、入居者同士の関係作りも大切であるため、夜間に茶話会を設けたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りなど、家族参加の行事を企画し、家族と本人と一緒に楽しめる機会を設け、絆作りを行っている。また、面会時には家族と散歩に行ってもらったり、スタッフも本人・家族の間に入り近況の報告を行うなど、情報の提供をし、話題作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や外出などにも特に制限を設けず、自由に過ごせるよう配慮している。また、行きたい場所などに出向いたりするなどの支援を行っている。	定期的に自宅の近くをドライブしたり、家族の協力を得て墓参りに出掛けるなど、なじみの関係が途切れないよう支援している。海やデパートに家族と一緒に出掛けることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	併設の事業所に馴染みの人がいる場合は面会の機会を設けている。 体操教室やイベントなどを定期的実施することにより、交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方や家族を行事のゲストとして招き、関係を絶たないようにしている。夏祭りには毎年来て頂き、着付けなどもしてくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なアセスメントの実施、常日頃からも本人の意思を尊重し、ケアを行っている。困難な場合は家族の意見や要望・生活歴を参考にし、ニーズの発見に努めている。本人の要望をスタッフ間で周知し合い、プランに活かしている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)の一部を採り入れ、利用者の思いや意向、暮らし方の希望等を細かに聞き取り、把握に努めている。家族や関係者からの情報も収集し、参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式を家族に記入していただいている。入居後も本人・家族の会話の中から情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身の状態について、個別記録や申し送りノートに記入し、24時間の様子をスタッフ間で周知し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングを実施している。家族には面会時に要望を尋ねたり、意見交換を行ったりしてケアプランの参考にしている。	本人や家族と十分話し合い、職員や関係者のアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、状況に応じて適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・D-4シートに日々の状態を記録している。また、ケアの気付きについては「なぜメモ」を活用し、会議や朝礼時に周知し、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態に応じて、ケアの仕方を見直したり、スタッフの勤務時間を変更したりするなど、柔軟に対応している。		

宮崎県宮崎市 グループホーム楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	岡田整形外科医院のトレーナーによるトレーニング教室に参加したり、入居者と一緒に近所のスーパーに買い物に行ったり、地域の人と交流しながら生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族・主治医と相談しながら、必要があれば受診してもらい、情報提供書の準備をしている。	利用者や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。ほとんどの利用者が隣接する母体の医院をかかりつけ医としている。急変時の対応やいつでも気軽に相談・受診がなされており、本人や家族の安心につながるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェック・問診を行い、必要に応じ受診や往診等を依頼し、状態報告をしている。また、連携医療機関の看護師の訪問が週2回程度あり、疑問や不明な部分は業務中に直接尋ねたり、医療面のサポートをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院の際は情報提供書を作成し、情報交換を互に行い、必要に応じて直接医療機関と相談している。連携医療機関の医師が直接動いてくれることも多く、医療との連携はスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針・方針については岡田整形外科医院の院長と介護支援専門員・管理者・家族を交え、入居時に説明・話し合いを行い同意を得ている。本人の状態や家族の要望に応じ、その都度主治医・職員と話し合っている。	重度化した場合の対応については、利用開始時に本人や家族に方針を説明し、同意を得ている。医師や家族、職員、関係者が方針を共有し、連携して支援している。看取りの実績も多くある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを備え、定期的に救急などの研修に参加しており、他スタッフへ周知を促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、様々な事態を想定し、防災訓練を実施している。訓練には消防署のスタッフや地域の方々の協力も得ている。	消防署や地域住民の協力を得て、年に2回防災避難訓練を実施している。訓練では役割分担の明確化や備蓄の確認もしている。また、近隣住民との間に自動通報連絡網を設け、緊急時の協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月ミーティング時に入居者への言葉掛けや対応の振り返りを行っている。また、月末には「振り返りシート」を活用した自己の振り返りを行っている。	定期的に接遇研修を行い、利用者への言葉かけや人格の尊重等について理解を深め、実践につなげている。また、月末には「振り返りシート」を活用して自己評価を行い、サービスの向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者やご家族との会話の中で、行きたい場所ややりたいことなどを聞き実施している。日々の生活の中でも、自己選択できる声掛けを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩に行きたい」と希望があったときは、天気・気温を考慮した上で外出したり、ドライブに行ったりしている。また、自己決定していただけるような声掛けを常に意識し、本人のペースも大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、理容室の方が来られ、希望者は切ってもらっている。 行事や外出時は外出着に着替えたり、化粧をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事に関して、入居者の出来る盛り付けや切込み等、アドバイスを貰いながら行っている。毎月食事会や外食等を企画し、入居者の要望に沿うようなメニューや内容を提供している。	食事が楽しめるよう一人ひとりの好みや要望を聞き取り、献立に生かしている。食事介助の必要な利用者が増えており、職員はさりげない言葉かけや対応に努めている。食事の準備を手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスについては、必要に応じて併設病院の管理栄養士に相談している。水分についてはお茶ゼリーを提供したり、清涼飲料水などの代替品で提供するなど、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に合わせた支援を行い、義歯洗浄・口腔内保清を行っている。 必要に応じて訪問歯科に依頼し、診察を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態や意思を考慮した上でトイレ誘導を行っている。排泄パターンの確認の為、チェック表を用いるなどの工夫も行っている。	排せつチェックシートを活用して、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。おむつを減らす取組も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方へは出来るだけ水分摂取を促しており、ヨーグルト・乳酸飲料・オリゴ糖なども食事に取り入れている。また、散歩や体操を実施したりする場を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な時間帯はあるが、本人の希望や健康状態に沿って入浴の支援をしている。	入浴は基本的には2日に1回としているが、希望があればいつでも入浴できるように柔軟に対応している。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、タイミングを合わせて声かけをするなど工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠そうな時や疲労感が見られる時は、声かけし、休んでもらっている。夜間も自然に眠くなるまで台所で話をしたりし、安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別台帳や入居者服薬一覧表に服薬の情報を記入、薬情報の保管をしており、皆が把握できるようにしている。また、処方確認や服薬手順を法人内の全事業所で統一することで、より把握をしやすくしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みや意思を尋ねた上で、家事や手作業をしていただいている。また、個々に嗜好品を楽しんだり、定期的に外出したりするなど楽しみを持ち生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行ったり、併設の施設に遊びに行ったりしている。また、外出行事も企画している。家族の協力もあり、一緒に食事などへ出かけられている。	車椅子の利用者が増えているが、ほぼ毎日散歩に出掛け、近隣住民と挨拶を交わしている。また、家族やボランティアの協力を得て、ドライブや外食、買物等を定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で預かっているが、本人が希望されるときは、家族の承諾を得て、本人に所持してもらったり、一緒に買い物に出かけ、購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したいと希望されたときや家族から荷物が届いたときなど、本人ともお話をさせていただいている。できる方は、毎年直筆の年賀状を送るなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や掲示板は月ごとにレイアウトを改め、季節感を感じてもらえるよう工夫している。強い日差しが差し込むときはカーテンをしたり、浴室の前には観葉植物を置き目隠しになるようプライバシーに配慮したりと、工夫している。	採光や温・湿度、換気等、利用者が快適に生活できるよう配慮している。テーブルには家族や職員が持ち込んだ季節の花を飾り、広々とした中庭ではデイサービスの利用者とお茶をするなど、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、みなで集まったり、体操をしたりできるスペースを設けている。本人の居室で一人で過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたもの・馴染みのあるもの(家具)を置いていただいている。	家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。使い慣れたベッドや長椅子、仏壇等を持ち込んでもらい、安心して生活ができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは本人の「できること」「できないこと」を理解した上で、家事や作業等の支援をしている。また、トイレや浴室等の表示を掲げ、場所の見当が付きやすいよう工夫している。		